

議 事 録

会 議 の 名 称	第 9 回玉里地区小中一貫教育学校建設準備委員会																																																
開 催 日 時	平成 2 8 年 1 2 月 2 1 日 (水) 1 9 時 0 0 分～																																																
開 催 場 所	玉里保健センター 1 階 集団検診室																																																
出 席 者	<p>【出席委員】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>石塚 匡巳</td> <td>小松与士宏</td> <td>小山田香代</td> <td>中村 仁樹</td> </tr> <tr> <td>小松崎由美子</td> <td>宮本真由美</td> <td>額賀 博</td> <td>長谷川美智子</td> </tr> <tr> <td>大山 徳</td> <td>小林 文雄</td> <td>塚本 繁雄</td> <td>圓尾 康子</td> </tr> <tr> <td>林 憲昭</td> <td>笹目 賢一</td> <td>羽鳥 文雄</td> <td>園部 文夫</td> </tr> <tr> <td>鶴町 文男</td> <td>関 四郎</td> <td>田上 義明</td> <td>亀井 優</td> </tr> <tr> <td>藤田 泰正</td> <td>大和田智弘</td> <td>大槻 良明</td> <td>小暮 真一</td> </tr> </table> <p>【欠席委員】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>山崎美奈子</td> <td>瀬畑 誠</td> <td>田山 憲一</td> <td>久保田浩一</td> </tr> <tr> <td>陽美美由紀</td> <td>遠藤 康子</td> <td>箱田 俊男</td> <td>田中 周</td> </tr> <tr> <td>菊地 和夫</td> <td>戸田 見成</td> <td>山口 淳</td> <td>荒井 敦</td> </tr> <tr> <td>戸田 大我</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>【事務局】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td>石田 進</td> <td>中村 均</td> <td>吉永 成範</td> <td>比気 龍司</td> </tr> <tr> <td>植田 薫</td> <td>外之内信浩</td> <td>戸塚 聡</td> <td>田村 直弥</td> </tr> </table>	石塚 匡巳	小松与士宏	小山田香代	中村 仁樹	小松崎由美子	宮本真由美	額賀 博	長谷川美智子	大山 徳	小林 文雄	塚本 繁雄	圓尾 康子	林 憲昭	笹目 賢一	羽鳥 文雄	園部 文夫	鶴町 文男	関 四郎	田上 義明	亀井 優	藤田 泰正	大和田智弘	大槻 良明	小暮 真一	山崎美奈子	瀬畑 誠	田山 憲一	久保田浩一	陽美美由紀	遠藤 康子	箱田 俊男	田中 周	菊地 和夫	戸田 見成	山口 淳	荒井 敦	戸田 大我				石田 進	中村 均	吉永 成範	比気 龍司	植田 薫	外之内信浩	戸塚 聡	田村 直弥
石塚 匡巳	小松与士宏	小山田香代	中村 仁樹																																														
小松崎由美子	宮本真由美	額賀 博	長谷川美智子																																														
大山 徳	小林 文雄	塚本 繁雄	圓尾 康子																																														
林 憲昭	笹目 賢一	羽鳥 文雄	園部 文夫																																														
鶴町 文男	関 四郎	田上 義明	亀井 優																																														
藤田 泰正	大和田智弘	大槻 良明	小暮 真一																																														
山崎美奈子	瀬畑 誠	田山 憲一	久保田浩一																																														
陽美美由紀	遠藤 康子	箱田 俊男	田中 周																																														
菊地 和夫	戸田 見成	山口 淳	荒井 敦																																														
戸田 大我																																																	
石田 進	中村 均	吉永 成範	比気 龍司																																														
植田 薫	外之内信浩	戸塚 聡	田村 直弥																																														
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・施設整備方針について ・配置構成計画について 																																																
会 議 資 料	別 紙 (会議次第、 他)																																																
記 録 方 法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録																																																
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 (傍聴者 0人)																																																

委員長 本日は「施設整備方針」「配置構成計画」とあるが、その前に参考資料について、事務局より説明をお願いしたい。

参考資料 1, 3に基づき、事務局より説明

事務局 資料 1 の説明の前に参考資料 1 と 3 の説明をしたい。まず、参考資料 1 をご覧いただきたい。前回の準備委員会において、参考資料として「小美玉市教育振興基本計画」のアンケート集計結果を配布したところだが、小美玉市の教育に関しての重要度と満足度が分かるグラフを用意して欲しいという要望があったので、その資料を提示させていただいている。では、左上のグラフをご覧いただきたい。こちらは、保護者における重要度と満足度の散布図となっている。今回のグラフ作成にあたり、重要度と満足度の数字を偏差値、平均値からどれだけ離れているかに換算している。縦軸を重要度の軸とし、上が 70、下が 30 としている。また、横軸を満足度の軸とし、右が 70、左が 30 としている。縦軸と横軸については、偏差値 50 で交差する形にしている。軸を起点として、4 分割で見えていただきたい。グラフの網掛け部分、左上に位置している箇所は、相対的に見て重要度が高く、満足度が低い項目となっている。右上に位置している箇所は、重要度と満足度がともに高い項目となっている。左下の位置している箇所は重要度、満足度がともに低い項目となっている。右下に位置している箇所は重要度が低く、満足度が高い項目となっている。また、右側の表は、前回提示した表に偏差値の欄を加えたものとなっているので、先ほどのグラフと一緒にご覧いただきたい。左のグラフに戻り、網掛けとなっている箇所に該当する項目は、⑳学校と地域との交流や地域の人材の有効活用、⑲特別支援教育、㉑就学前教育の充実、㉒命を大切にすることを育む教育、㉓物事を多様な観点から論理立てて考える学習となっている。また、下のグラフ、教職員における重要度と満足度の散布図を同じ形でご覧いただきたい。網掛けとなっている箇所の項目は、⑲特別支援教育、㉓物事を多様な観点から論理立てて考える学習、⑬学校行事となっている。保護者、教職員共通となっている項目は、⑲特別支援教育、㉓物事を多様な観点から論理立てて考える学習となっている。

続いて、参考資料 3 の説明をしたい。参考資料 3 は、前回提示させていただいた「新しい学校づくりのためのアンケート集計結果の概要」のグラフに修正を加えたものとなっている。修正を行った箇所は 4 ページ以降となっている。まずは 4 ページをご覧いただきたい。以前のものは、上に位置している帯グラフのみだったが、今回は下の回答一覧、児童生徒、保護者、教職員、全体の対象毎に回答率が高い項目を上から並べ、円グラフを作成している。また、このページから 12 ページまでは同様に回答一覧を設けている。その中で 5 ページと 11 ページの設問については、複数選択の設問となっている

ので、棒グラフのみとしている。続いて、13ページから15ページをご覧いただきたい。アンケートの自由記述欄にいただいた意見を項目分けしたのになっている。(1)は「建設計画に関するご意見」、(2)は「新校舎に関するご意見」、(3)は「新校舎の設備に関するご意見」、(4)は「新校舎以外の施設に関するご意見」、(5)は「教育に関するご意見」、(6)は「特別活動・行事等に関するご意見」、(7)は「既存施設に関するご意見」、(8)は「その他のご意見」とした。

【協 議】

- (1) 施設整備方針について
- (2) 配置構成計画について

委員長 施設整備方針、配置構成計画について、青山建築設計事務所より説明をお願いしたい。

資料1, 参考資料2に基づき、青山建築設計事務所より説明

青山建築 基本構想(1)施設整備方針。先日実施したアンケート、玉里地区における小中一貫教育の計画より、学校施設づくりのテーマを実現するために4つの施設整備方針を設定した。テーマは「豊かな自然環境の中で真剣な瞳と輝く笑顔があふれる学び舎」となっている。玉里の自然を生かし、子供達の笑顔あふれる学び舎を造っていきたいと考えている。続いて、4つの施設整備方針について。「①一貫した教育活動と多様な展開を実現する学校」事前配布を行っているので、まとめて説明させていただく。①～⑤をまとめ、心身ともに成長する児童生徒を見据えた9年間の連続した学び舎の整備。「②明るく笑顔のたえない楽しい学校」①と②をまとめ、児童生徒が活気にあふれた学校生活を送ることができる学び舎の整備。「③玉里地区の豊かな自然環境と共存する学校」①と②をまとめ、自然環境を生かし、周辺環境と調和した学び舎の整備。「④安全性に配慮した安心できる学校」①～③をまとめ、防犯・防災に配慮した学び舎の整備。以上を学校施設づくりのテーマ、整備方針とした。テーマ、整備方針については、参考資料2を基に作成したものになる。参考資料2については、アンケートの間と答、全体の%などを明記したのになっている。内容については割愛させていただく。

委 員 施設整備方針は、こういったところで作られたか教えてもらいたい。こういったメンバーでこれをまとめたのか。

青山建築 施設整備方針は、コンサルタントと事務局、委員長、副委員長で作成したものになっている。

委 員 こういったコンセプトをまとめることが我々の仕事ではないかと思っていた。

青山建築 案として提示させていただいている。
委員 案とは言ってないと思う。
青山建築 何もない中では説明しづらかったため、作成している。
委員 案なのか。
事務局 案という形で提示させていただいている。
委員長 質疑は後ほどまとめて受けるので、よろしいか。説明を続けてお願いしたい。

資料 2, 参考資料 4 に基づき, 青山建築設計事務所より説明

青山建築 続いて, 配置構成計画についての説明をさせていただく。
配置の説明をする前に現状敷地の説明をしたい。参考資料 4 は, 前方のスクリーンで説明させていただく。玉里地区のほぼ中央に位置し, 県道紅葉石岡線からなだらかな市道を上った場所に玉里小学校, 玉里中学校がある。
まず, 中学校敷地の現状について①～⑨の写真を用いて説明する。①西側道路, なだらかな下り坂で高低差がある。②中学校の下の道路より撮影した写真となっており, 丘の上が中学校の敷地となっている。③同じく中学校の下の道路よりテニスコートと道路の高低差が分かる。④体育館脇の自転車置き場付近に西側隣地との高低差がある。⑤校舎とグラウンドについても高低差がある状況となっている。⑥グラウンドとテニスコート。校舎とグラウンドに高低差があり, さらにテニスコートへは高低差がある。⑦グラウンド南東に位置している旧門。⑧県道紅葉石岡線から旧門へのアプローチ。写真の一番奥が県道になっており, そこから上り坂のアプローチとなっている。⑨小学校と中学校間の市道。上り坂となっており, 左手に中学校, 右手に小学校になっている。
続いて, 小学校敷地の状況について, ⑩～⑬の写真を用いて説明する。⑩東側道路。写真の奥が正門となっており, 上り坂の途中の写真になっている。道路と校庭に高低差がある。⑪正門から北側, 道路と敷地との現状。⑫小学校と中学校間の市道。道路と敷地には高低差があります。市道側から小学校の敷地を見た写真になる。⑬同じく学校間の市道より左側が小学校, 右側が中学校となっている。
配置構成計画に移りたい。資料 2 をご覧いただきたい。想定校舎は, A 案が増築案となっており, 既存中学校校舎 3, 204 m²+増築 3, 800 m²程度の案。B 案が新築 7, 000 m²程度の校舎の案となっている。計画学級数は 22 となり, 普通教室 18, 特別支援教室 4 という内訳で構成を考えている。②配置条件は, 安全動線に配慮した配置計画となっている。既存体育館の有効活用についての配慮やグラウンド, 駐車スペースの確保等を配置の条件とし, A 案, B 案の作成をしている。提案配置は, 前方のスクリーンで説明させていただく。校舎の形状は, あくまで想定となっており, 実際には基本設計での案作成を考えている。

A-①案は、前方に増築した案となっている。既存活用の施設、現中学校校舎を青色で示している。増築校舎をオレンジ色、屋内運動場と兼用が想定される多目的ホールを赤色、駐車場を黄色、駐輪場を緑色で示している。また、グラウンド、スポーツエリアをピンク色、遊具エリアを紫色で示している。配置比較表においては、既存体育館やグラウンドの接続が良い、今までの使い方とほぼ同じ考え方で体育館の利用、グラウンドの利用ができるため、動線の確保の項目に◎としている。グラウンド環境については、既存グラウンド用地より小規模なグラウンドになるが、200mトラックが同一敷地に確保できるため、○としている。続いて、施工性。増築案のため、仮設校舎を検討する必要がある。また、既存校舎との接続部もあり、工事期間中の既存校舎への騒音や日照の影響も考えられる。そのため、△としている。周辺環境への影響は、既存校舎前面のグラウンド側配置となるため、周辺への影響は少ない。今までと同じような使い方になるため、○としている。

続いて、A-②案に移りたい。既存中学校校舎の西側に増築した案となっている。動線の確保については、旧門の活用により車両動線と通学動線を分けることができるが、校舎内動線が長くなるため、○としている。グラウンドの環境については、200mトラックを同一敷地内に確保できる。しかし、建物を南側に配置することによりグラウンドへの日照影響が出るため、○としている。施工性については、増築案のため、仮設校舎を検討する必要がある。また、既存校舎との接続がある。工事期間中、既存校舎への騒音影響が出るため、△としている。周辺環境の影響については、主要道路との距離が確保されるため、工事期間中の交通影響は少ない。敷地南側住居との距離に配慮する必要があるため、○としている。

B案に移りたい。B案は新築案となっている。B-①案、既存中学校校舎の前方に新校舎を建てる案となっている。動線の確保については、既存中学校校舎とほぼ平行に建てるため、既存体育館やグラウンドへの接続が良い。円滑な通学・校内動線を確保することができるため、◎としている。グラウンド環境については、既存のグラウンドに校舎を建てるため、150mトラックとなるが、◎をつけている。施工性については、仮設校舎を設置せずに工事を行うことが可能となるが、工事期間中の既存校舎への騒音や日照影響があるため、○としている。周辺への影響については、周辺住居や主要道路との離隔距離を十分に確保できる。こちらは△としている。

B-②案に移りたい。中学校敷地の南側、市道側に新築した案となっている。動線の確保については、既存体育館やグラウンドへの接続が良く、旧門からのアクセスも良好となっている。多面的に計画・検討を行うことが可能であるため、◎としている。グラウンド環境については、200mトラックを確保でき、日当たりが良好であるため、◎としている。施工性については、新築案のため、仮設校舎設置の必要がない。市道側に近いので、その近辺からの工事もでき、施工のストレスが一番ないのではないかと考えられるため、

◎としている。周辺環境への影響については、市道に日照影響があるため、△としている。

続いて、B-③案に移りたい。西側に新築した案となっており、敷地に段差があるため、複雑な形状の建物になってくるのではないかと思う。動線の確保については、接道から安全な距離を確保することができるが、校舎内の動線が長くなるため、○としている。グラウンドの環境については、200mトラックを確保できるが、日照の影響が出るため、○としている。施工性については、工事動線が長くなるということが予想される。既存施設の一部に日照影響が出る可能性があり、△としている。周辺環境への影響については、主要道路との距離が確保されているため、工事期間中の交通影響は少ない。敷地南側との離隔距離に配慮する必要があるため、○としている。

事務局 この後に質疑等となるが、資料について補足説明をしたい。先ほど委員から質問があったように、施設整備方針、配置構成計画については、今回の委員会でいただいた意見等を基に修正等を加え、次の段階に移行したいと考えている。いずれも案の段階と理解いただきたい。

委員長 それでは資料1について、質問等をお願いしたい。

委員 「③玉里地区の豊かな自然環境と共存する学校」とあるが、具体的にどういったことを考えているのか。例えば、建屋に木材を使用するということか。校庭等も全て含めて施設を造ろうとしているのか。非常に良い案だと思うが、③だけ具体的なイメージが分からなかった。学校のイメージに対して、どういったものを造るのがよく分からない。

事務局 参考資料2をご覧ください。「③玉里地区の豊かな自然環境と共存する学校」については、アンケートの結果を引用したことが見て取れると思う。先ほどの説明と重複するが、③の表記についても、これらの結果を基として案を作成しており、委員から意見をいただく中で、例えば壮大な霞ヶ浦のイメージなどの意見が出され、それが一貫校の教育の中に含めていただけるものであれば良いのではないかというイメージを持っている。なので、そういったキーワードや発想のポイントを捉えていただきながら意見等をいただき、文言を変えていく、手を加えていければ良いと思っている。

委員 ハードの整備を行う場合、基本構想の中にそういったエリアを造っていかなくてはならない。そこまで入れるものがあるのか。

委員長 敷地の中に自然環境関係のものを入れるのかどうかということかと思う。

委員 そういったものを配置に入れるかによって、全体の構想が変わるかもしれない。配置の説明でよく分からなかった点もある。これは校舎しか考えていないものになっている。付随施設をどのように考えていくのかが決まらなないと、話し合うことが難しいのではないかと思う。

委員長 事務局でいかがか。

委員 配置に影響がないのなら良いと思う。

事務局 ③については、①と②に記載されているとおり建物についてとなっている。①では、自然の材料や通風、換気などとなっている。②では、太陽光発電などの記載になっている。それについても委員の意見を踏まえながら進めていきたいと考えている。

委員長 その他に資料1について意見等はいかがか。

委員 現玉里小学校の敷地の活用についての説明がなかった。

事務局 今回は玉里中学校の敷地のみで完結する形になっている。基本的な考え方としては、学校の始業から終業までの時間において、移動等の時間を取らない形としており、1つの敷地になっている。また、玉里小学校の敷地については、終業後の部活動などで体育館やグラウンドを使用できると考えている。

委員長 意見等が無ければ、資料2の配置構成計画に移りたい。

意見なし

委員長 資料2について、意見等をお願いしたい。

委員 色々な案が出たが、当初の話では中学校を壊して造り直すということが決まっていたと思う。子供達のことを考えると、現玉里小学校の脇の畑に小学校、中学校を造れるかどうかといったことを最初に話したと思う。今話を聞いていると、中学校の敷地で収めるという話になっていると思う。それは先生から見た場合、子供達にとって良いのかが分からない。狭い中学校の敷地に小中学校が入り、教育がきちんとできるのかどうか。200mトラックの取れるグラウンドが欲しいと書いてあったが、B-①案では150mトラックとなっている。その場合でも◎としている。B-①案が良いとなった場合、教育関係の考慮がなくて良いのかどうか。そういったところが出てくると思う。

青山建築 説明の訂正をしたい。B-①案のグラウンド環境は△で考えている。各委員に配付済みの資料は△としているが、説明する資料では違った形にしてしまい、説明してしまった。周辺環境の項目についても説明では△となっていたが、正しくは◎としている。

委員長 資料の配置比較表のB-①案のグラウンド環境で150mトラックとなり、△ということ。

委員 先ほどの話は例えばの話だが、B-①案が良いとなった場合、教育関係で200m欲しいとしていたが、150mとなってしまう。そういったことになって良いのかということ。全体的に教育の問題としてどうなのかと思った。その他、現玉里小学校までの範囲で考え、もっと大きくイメージを作って話し合った方が良いのではないかと思った。

委員長 小学校の敷地にも施設を造るということか。

委員 そのように考えた方が良いのではないかと思う。

委員長 1年生～9年生までの一貫教育という趣旨からすると、道路を挟んで移動を行うことはあまり相応しくない。道路を渡らなくてはならないといった問題

が出てくる。以前にソフト面の話をしたが、1～4年生、5～7年生、8・9年生のブロックが中心になってくる。例えば、ブロック間の交流も出てくる。そういった場合には施設を分断することはよろしくないと思う。

委員 造る費用もあると思うが、大きな橋を造れば良いと思う。

委員長 できるだけ安全にすると考えた場合、リスクを減らした方が良いのではないかと思う。

委員 あとは費用の問題。それを造るのに対して、概算費用はどのくらいなのか。先ほど仮設校舎を造る、造らないということがあった。仮設校舎を造る場合、大きな費用がかかると思う。A案とB案があったが、仮設校舎を造るかによって、大きく費用が変わってくると思う。その点について見えていない。どれが良いかということだと思うが、これでは私達が判断できない。

事務局 仮設校舎を導入する経費については、仮設校舎のリースを16ヶ月間行った竹原小学校で約1億円かかっている。竹原小学校の場合は普通教室をリースとし、特別教室については既存校舎を活用した。今回の既存校舎を利用する案となると、特別教室のリースも考えないとならないので、それ以上の費用がかかってくるのではないかと思う。また、道路に橋を造るという話があったが、歩道橋の建設事例では1億円程度と把握している。

委員 仮設校舎の費用だけでなく、全体的に費用がどうなるかを見ていかないと分からない。また、学校側として、絶対に200mトラックが良いということやグラウンド面積がこのくらいが良いということ、駐車場は何台分が必要ということなど、学校からの要求が全く出ていない。それが無い案では、学校として良いのか、満足できるのかが分からない。そういったことを踏まえたものを作り、我々に要求しているものは何なのかを決めないといけなのではないだろうか。学級数、教室の数は22と決まっている。そういった資料というものはどのように考えているのか。それが無いので、○のつけようがない。

委員長 資料では、現玉里中敷地の中で施設をどのように造ることが良いのかということ案を出していると思う。

委員 これから何十年先も使うものなので、教育の場として「これだけのものは必要」というものがあるはずだと思う。

委員長 それについては、教育委員会から玉里地区の各小中学校、教職員に普通教室や特別教室がどのくらい必要なのかという調査がかかっている。

委員 それが決まらない限りできないと思う。

委員長 限られた敷地の中で何とか造らなくてはならないという思いがあるかと思う。先ほど話にあったトラックについても、6～9年生を考えた時には200mトラックは必要になると思う。そういったことを勘案して、比較表ができていると思う。この限られた敷地でどのようにすれば有効的に施設として恵まれた、子供達の学ぶ環境として良いのかを考えた案となっていると思う。玉里小の敷地についても懸案としていたが、現玉里小敷地の面積は1年

生～9年生までの一体型校舎を造るには非常に狭いという話を聞いている。どういった形で施設を造った方が良いのかという、今考えられる場所を提案していると思う。それは含みおきいただかないとならないと思う。

委員 それはそうなのだが、やはり要求すべきことがあり、いかにそれに近づけていくかということだと思う。

委員長 例えば、こういったことが考えられるということは委員にあるか。

委員 そうではなく、グラウンドはどのくらいの面積が必要かということをお我々は分からない。比較表を見ると、大きい、小さいと書かれている。それでは大きいところで満足できるのか。もし満足できないのであれば、何かしら考えなくてはならないと思う。例えば、小さい建物を玉里小学校側に残すということだって考えられる。

委員長 施設を現玉里小学校側に造るということか。

委員 現玉里小学校の脇の土地を使い、必要なスペースを確保しましょうということや、やはり出来ないので諦めましょうといったことがあるだろうと思う。

委員長 資料を見ると、玉里小学校の校舎を将来的に壊すことになり、白い線で示されているように、野球グラウンドを玉里小学校に造るといった構想が見られる。

委員 そのような説明はなかった。

委員長 校舎を玉里中学校の方に集約した場合には、そのような想定が示されている。以前に教育委員会から、玉里小の校舎や体育館をそのまま学校施設としてしまうと補助金が出ないという話も伺っている。そういったところを勘案すると、施設を現玉里中敷地に集めることがベストではないかということ、このような案が出ていると思う。

委員 そういった制約条件はきちんとおっしゃっていただかないと我々は判断できない。

事務局 コンサルタントとともに行っている基本構想業務が何かということになる。昨年度にこの組織を立ち上げた際にも説明した学校適正化の実施計画において、玉里地区の小中一貫校を平成32年度までに整備を行い、平成33年度に開校としている。整備予定地については、玉里小学校・玉里中学校と明記している。児童生徒数については、児童数が372名、生徒数185名、合計で557名で19学級になるとしている。これをスタートに考えていただきたいと思います。また、トラックの大きさや教室数、校舎面積等についても、当初では校舎を小中一貫校とし、7,700㎡を目標とするという道標がある。基本構想業務の中では、どの場所にどういったものを建てるということをお考えるため、今回の委員会では校舎をどこへ位置付け、グラウンドはどのようにするかということをお図面に起こし、5つの案を示している。校舎の位置、トラックの大きさなどが完全に決まってくるものではない。年度当初に説明した内容において、基本構想の後に基本設計業務に移行するというおことに触れている部分があると思う。委員長からあったように、教室数などを踏まえながら決めていくという性質のものであるということをお再度理解いた

	だきながら、意見をいただきたいと考えている。
委員	新築をする場合、法律では5階建てにするとどうなるのか。
青山建築	4階建てまでの高さでの建築可否は確認している。5階建てにした場合、道路からの距離を取れば建築可能になることはある。道路に近い場合は道路斜線制限にかかることがある。校庭の中央では問題ないと思う。
委員	グラウンドが狭い場合は、そのようなことも考えられるのではないか。
青山建築	それは考えられる。今回はあくまでも位置について提案させていただいている。
委員	建物は3階建てなので、茨城県の木を使うということではなく、基本は鉄筋コンクリート造と考えて良いか。
青山建築	3階建てまでであれば、木造での建設も可能。鉄骨での建設も可能となる。構造の検討までは基本構想の中では行わない。
委員	木造と鉄筋コンクリート造ではどちらの方が費用が多くかかるのか。
青山建築	建物の高低や面積の増減によるが、木造と鉄筋コンクリートを比べると若干木造の方が安い程度であり、木造が大幅に安いということにはならない。建物を耐火仕様にしなくてはならないことや構造を補強しなければならないといったことがある。一概に木造が安いということにはならない。実際に設計してみなければ、具体的な金額は算出できない。
委員	木造と鉄筋コンクリート造では、耐用年数がどのくらい違うのか。
青山建築	鉄筋コンクリート造の耐用年数は47年だが、木造の耐用年数は次回に示したいと思う。
委員	鉄筋コンクリート造の耐用年数はアパートの話。普通の家での耐用年数は20年。47年は鉄筋コンクリート造のアパートの話でしょう。
委員	結論的には、この5案をベースに先に進めましょうということか。
委員長	実際に建設している間も子供達は過ごしている。例えば、プレハブに16ヶ月という話があったが、それについて良いのかということも考えていかなくてはならない。
委員	私もプレハブ校舎で過ごした経験があるが、大変だった。
委員長	子供達が学習しやすい環境をつくるということが大事だと思う。
委員	提案いただいた資料の中で◎○△の評価があるが、「～に考慮が必要です」「～を検討する必要があります」という項目が多くある。検討する必要があるために△なのか、検討を行って対策を立てた場合には◎になるが費用が大きくなりすぎて駄目になるのか。考えなくてはならないことが多くある中で、「A案が良い、B案が良い」という話をするのはあまりにも早い。
委員長	配置比較表を見ていただき、その中で総合的にどれが相応しいかを見つけていかなくてはならないと思う。
委員	△とついている箇所について、費用を投じれば可能といったことや、全く駄目といったことを整理していかなければ◎とは言えないと思う。
事務局	盛んに委員から質問をいただいているところだが、本日で全てを決定しよう

と知っているわけではない。初めて委員に見せた案なので、他の委員の皆様からも「ここはどうなの」「あそこはどうなの」というようなことを語っていただければ、それを持ち帰り、次回は解決策として示せると思う。費用の話もあった。実施計画では、20億円という数字が出されていたことを承知いただいているかと思う。その20億円をいかに効率的に使うかという観点に立ち、コンサルタントに20億という数字を示し、その時に既存校舎を使う案と新築をする案を示している。まだまだ大雑把な段階となっている。委員からの意見にあったように、「150mで良いのか」というような声を皆様からも出していただき、「やはり200m必要」ということになれば、消去法ではないが、「この案は落ちていくよね」というような議論になると思う。今、なかなか発言していない委員もいる。どういったことでも良いので、どんどんと意見等を出していただければありがたい。貴重な意見をいただいた上で案を再度示し、まとめていきたいと思っている。忙しい中で集まっていた中で、発言できずに自分の想いが伝わらなかったということがないよう、ぜひ意見を言っていただけると我々も助かるので、よろしく願いしたい。先生方も遠慮されずに積極的に語っていただければ、我々も参考にさせていただきたいと思うので、よろしく願いしたい。

委員長 事務局からあったが、配置案や説明があったことについて、質問等があればお願いしたい。

委員 配置とは関係ないが、児童生徒の登下校の送迎について。スクールバス等の計画はあるのか。

事務局 統合後の学校の場所に通うことにより、通学距離が長くなる児童生徒もいると思う。通学距離が長くなったことに関する支援として、スクールバスの運行も学校適正化の実施計画の中に含んでいるので、今後協議をしていきたいと思っている。

委員 配置において、スクールバスのロータリー、駐車場などのスペースが必要になるのではないかな。

事務局 配置案では車両の出入口を明記している。それを中心にスペースを設けているかと思う。市道玉里1号線からのアクセスを想定し、スクールバスの旋回ができるかといったことや児童生徒の出入口、先生方の車の往来も想定し、次の段階には計画の中に落とし込んでいくように考えている。

委員 学校で仕事をしていて、平成33年度にどういった学校になるのかを考えている。私個人の意見だが、両方の土地を使う場合、例えば現玉里小学校敷地に校舎を集約し、現玉里中学校敷地は運動専門のような形にしてはどうかと思ったことがある。理由としては、両方の土地を使った場合に移動が大変になる。歩道橋という意見があったが、普通の歩道橋ではなく、雨の場合にも濡れずにグラウンド間の移動ができる屋根つきの歩道橋があると便利ではないかといったことを思っている。地元の人と話すと、西側の畑を買収して校地を広げるといった意見も聞いたことがある。買収を行い、広がれ

ば良いのではないかと思っている。また、安全性に配慮した目の行き届きやすい施設ということがあるが、以前に潮来一中や潮来二中のような四角い施設があるという話があった。そういった形も良いのではないかと思う。また、現玉里小学校校舎は南西向き、現玉里中学校校舎は南東向きとなっている。多くの学校は南向きだと思うので、良い学校を造るのであれば、南向きの方が良いのではないかと思う。先ほど、色々な意見がほしいという話があったかと思うが、現玉里小学校側に校舎を集約するような案も出してもらえないだろうか。そして、現玉里小学校側に校舎を集約した場合、こういった事項があるといったことが分かれば、この場所しかないといったことにもなる。私の経験では、校舎のすぐ脇にグラウンドが位置し、グラウンドで何か行っている場合、中学生くらいになると、それを頻繁に見てしまい授業が疎かになるということがある。なので、勉強は現玉里小学校敷地で行い、運動は現玉里中学校敷地で広々行った方が良いのではないかと思う。

委員 小学校と中学校の敷地面積はどのくらいか。

事務局 玉里小学校敷地が13,801㎡、玉里中学校敷地が30,121㎡となっている。

委員 個人的にはB-②案が良いと思う。この5案の中では、一番グラウンドも広く取ることができ、良いのではないかと思う。道路に影ができるということもあるが、3階建てとした場合、高さはどのくらいになるのか。

青山建築 14mほどになる。

委員長 その他にいかがか。

委員 教育委員会では、玉里小学校脇の敷地の件について検討の余地があるのか。
事務局 当初の計画の中に校地を買収、エリアを広げるような形もあり、話をした部分もある。校舎建設に係る経費以外に用地買収費がかかるということがあり、厳しい財政事情を反映した中で、現時点での配置案ではそういったものを見込んでいないということがある。

委員 先ほど、プレハブ校舎を使用すると1億円程度必要ということがあったが、その他に木造を建てた場合という話もあった。

事務局 総費用は、仮に場所が決まった場合にも現時点で出しているものではない。ここで示せる段階ではない。校地の拡張についても積極的な意見をいただきたいと思う。

委員 頭には入れておいてほしい。

委員 既存校舎を使用する場合のデメリットはどういったものがあるのか。教室が狭いといったことが考えられるといったことが明記されていない。新築にした場合はそれなりのものが建つと思うので良いと思うが、既存校舎の場合の問題点はどういったものがあるのか。

青山建築 既存校舎の間仕切りを変更して使用する場合は、構造的に問題がある可能性はある。その検証までは至っていない。例えば、児童生徒がいる普通教室をなるべく新校舎に造り、既存校舎を特別教室とした場合、特別教室棟に給排

水設備を設置する費用がかかることになる。

委員 特別教室は、環境面などに気を遣わなければならない部分ではないかと思う。そういったデメリットをバックアップするのか、なくすのかを考えなくてはならない。

事務局 A案は増築案となっており、増築部に普通教室、管理諸室を配置する案になっている。既存校舎は特別教室、理科室や図工室等を配置するとしている。間仕切りを変更、壁を抜くといったことがあるので、仮設校舎を使用するという話になってくる。

委員 既存校舎は建築から何年経っているのか。例えば、既存校舎を使用して増築を行った場合、何年後かには既存校舎を建て替えなくてはならないということも考えなくてはならない。既存校舎は何年もつのかといったことをリークする必要があると思う。壁を抜く、抜かないという話があった。例えば、壁を抜いて造ったとしても、既存校舎が建築から20年経っていた場合、あと20年しか持たないといったことになる。

委員長 既存校舎を使った場合の耐用年数を含め、次回に提示していただきたいと思う。

委員 校舎は36年前の建築ではないかと思う。おそらく昭和55年築。

委員長 これまでに出た意見については、次回に回答いただくという形にしたい。

【その他】

次回の委員会開催について

平成29年2月2日（木）19：00～

玉里保健センター 1階 集団検診室を予定

20：26 閉会